

January

2007

1

あなたとJAのコミュニケーション情報誌

Vol.385

夢 広がる なかしべつ

JA中標津

公式HPオープン!
www.ja-nakashibetsu.or.jp

PCでも、モバイル版でも
どうぞ!!



INDEX / 目次

代表理事組合長 R 橋 勝 義... 3

北海道農業協同組合中央会会長 宮田 勇氏... 4

根室農業改良普及センター北根室支所長 松田 修氏... 5

女性部長 長正路八世榮さん、青年部長 中本信幸さん... 6

全道JA青年部大会・青年部反省会... 7

視察研修報告 竹村絵里さん、青年農業者会議中標津町4Hクラブ... 8

畑作女性の集い・加工食品製造研修、JAなかしべつ杯ソフトバレーボール大会... 9

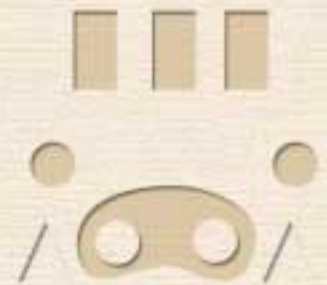
アイドル 松田涼くん... 10

全道女性大会・家の光大会報告 松田幸子さん... 11

第7回理事会報告・クロスワードパズル・読者の声... 12~13

掲示板... 14~16

JA中標津公式HPオープン... 17



中標津町農業協同組合



謹賀新年

中標津町農業協同組合

平成十九年 元旦

代表理事組合長	藤井 橋	副組合長理事	上村 美勝	営農委員長理事	鈴木 重智	管理購買委員長理事	中林 祥幹	生産委員長理事	篠永 忠雄	理事	瀧場 直文	理事兼務参事	乾出 清賢	理事兼務管理部長	西村 聖一	代表理事	土上 昭男	監事	乾平 雅義	川邊 優一
---------	------	--------	-------	---------	-------	-----------	-------	---------	-------	----	-------	--------	-------	----------	-------	------	-------	----	-------	-------

外
役職員一同



内外の諸課題に組織の結集を

代表理事組合長 h 橋 勝 義

新年あけましておめでとうございます。

皆様には、2007年の門出を御健勝でお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

昨年中は本組合の事業運営に対して、組合員の皆様をはじめ、各関係機関の方々には特段のご指導ご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年6月8日、通常総会の前日、札幌で開かれた生乳生産配分にかかわる全道会議で突然倒れてから5カ月間という長い期間を入院療養で不在にし、皆様に多くのご迷惑をおかけしたことを心よりお詫び申し上げます。

多くの皆様のご厚情に励まされ治療に専念させていただいたことで、完治といえないまでも、なんとか日常生活を送れる状態になり、農協業務にも復帰することができました。この出来事は、私の生涯の予定にまつたくありませんでした。生きていく以上は身に突然何が起るかわからないことが身をもって感じました。皆様におかれても、くれぐれも健康に注意を願うものです。

今後はよりいっそう健康管理に留意をし、組合員、農協事業発展のために誠心誠意努力いたす所存にございますので、何卒倍旧のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。さて、低迷を続ける牛乳の消費は回復の兆しを見せず、昨年13年ぶりの減産型の計画生産方針によって需給バランスを調整するためとはいえ、

減産は生産者に大きな苦汁を願うこととで誠に残念な事態と言わざるを得ません。

今後、飲用牛乳の消費が行き詰まりの状況で消費者のニーズを捕らえ、地元でも今までのない取り組みを、生産者、青年部、女性部に協力を頂いて、消費の回復に努力してきました。

新たな動きとしてチーズなどの増産体制に対応するべく中標津の雪印新チーズ工場をはじめ、乳業大手3社により新工場の増設に着手しております。

プール乳価を横にらみしながらも原料乳の安定調達と今後の生乳生産に弾みがつくことを期待しつつ、一方で課題もあり早急に交通整理し酪農地帯として大いなる可能性が確実に実現するよう努力しなければ思っています。

一方、WTO農業交渉が結論を見いだせずに中断された状況のなか、急遽日豪FTA問題が勃発しました。

関税撤廃されることになると本道農業に壊滅的な影響を及ぼすことになりかねません。乳製品を含む農業分野の重要品目の扱いが焦点となっておりませんが、今後ともこれらの国際交渉には予断を許さない状況の中で、牛乳の消費拡大に全力を挙げながら生産調整に取り組んでいかなければ

なりません。

本組合においても計画生産の取り進めに当たっては、営農部、生産部を中心に万全の体制で生産者に周知徹底してまいりたいと思っておりますので、作業効率を高め、生産コストの低減に向けて今以上に努力いただきますようお願い申し上げます。

農協事業につきましても、大型複合施設の移転新築や大手資本の参入など、本組合のみならず、根室管内商圏が大きく変容した激動の1年でした。

特に「あるる」については大型競合店の影響に重ねて、予定されている新規出店など事業に与える影響は憂慮すべき状況となっております。

今こそ「協同の精神」で組合員と役員が二人三脚で組織全体の結集率を高める事が必要と思えます。何卒ご協力を願いたいと思えます。

この他、当面の課題も山積みしており、今後の農協事業推進にあたり気持ち新たに全力をもって取り組んでまいりたいと思えます。

結びに組合員をはじめJAご利用の皆様にとりまして平成19年が輝かしく希望に満ちた年でありましてことをご祈念申し上げます。

一人は万人のために、万人は一人のために

北海道農業協同組合中央会会長 宮田 勇氏



謹んで新年のお慶びを申し上げます。

謹んで新年のお慶びを申し上げます。昨年の北海道農業は、春先の天候不順で、収穫期の作柄を心配しておりましたが、その後の好天により地域差はあるものの全体的には総じて良好に推移しました。特に米の作況指数は105と昨年に引き続き豊作となりました。しかし、10月以降本道を襲った低気圧、竜巻・突風などにより一部地域において農地や施設に大きな被害が発生いたしました。被災された皆様には心からお見舞い申し上げますと共に、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

さて農業・農村・JAを取り巻く環境は、WTO農業交渉が先送りとなつている中で、政府は日豪FTA・EPA交渉に入る方針を固めました。日豪交渉では、本道の主要農畜産物の多くが競争しており、仮に関税が撤廃されることになれば、本道農業に壊滅的な打撃を与えることは明白であり、予断をゆるさない状況にあります。

JAグループ北海道といたしましては、今後とも米麦、牛肉、乳製品、砂糖など重要品目の関税撤廃の例外

化の確保にむけて引き続き経済・商工・消費者団体など関係団体との連携を強化し、粘り強い運動を継続してまいりる所存であります。

次に、品目横断的所得安定対策につきましましては、すでに小麦で加入申請が進んでおり、本年からの移行に支障が生じないよう万全を期してまいりたいと存じます。また、新エネルギーを目標すバイオエタノールにつきましましては、19年度から実証プラントをホクレン清水工場内に建設を開始し、21年度操業をめざしてまいりたいと存じます。

また昨年は規制改革・民間開放推進会議による「信用・共済事業の分離・分割」「独占禁止法の適用除外」などJA組織の存続にかかわる問題が提起されております。引き続きJAに対する道民の理解を深める広報対策を強めてまいりたいと存じます。さて昨年は3年に一度開催される「第25回JA北海道大会」が開催されました。向こう3カ年における北海道農業・JAが取り組む指針であり、北海道農業が日本の食料基地としてさらにステップアップを図るため、

食料自給率の向上と消費者への安全・良品質な農畜産物の供給を目指すとともに、JA経営では自己責任に基づく経営の健全化を図り、JA合併を中心に強靱な経営基盤を確立することが必要であります。

これまでの社会はひたすら物質的豊かさを追い求めてきました。その結果、経済効率、企業優先の社会となり資源や環境の破壊をもたらしてきました。しかし環境や資源、安全などが重視されるようになり農業、JAに対する見方も随分変わってきました。競争から共生の社会へ時代は変化しています。いまこそ「一人は万人のために、万人は一人のために」という協同組合の理念を全員が意識し、「共生の世紀づくり」にまい進しようではありませんか。JAグループ北海道は組合員、JA、地域住民の期待と信頼に応えるためこれからも全力で取り組んでまいります。最後に、本年は災害がなく豊穡の出来秋を迎えることができますよう心からご祈念申し上げます、新年のご挨拶といたします。



技術総点検で高効率経営を

根室農業改良普及センター 北根室支所 支所長

松田 修氏

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

皆様にはご健勝で輝かしい新春を家族共々お迎えのことと存じます。また、日々の営農に精を出され、地域農業の発展にご尽力をなされていることに対しまして、心より敬意を申し上げます。

特に貴組合におかれましては、酪農における新しい形の支援システムであります、TMRセンターの育成、また、ルーキーズカレッジの継続的な実施など担い手育成への取り組みは、これからの地域農業をお考えになられた対応であり、特筆に値するものと存じます。

昨年を顧みますと、4月下旬の大雪による早春作業の遅れ、6月の低温・多雨と日照不足による一番草の生育遅れ、8月・9月は平年を大幅に上回る平均気温、10月上旬の強風など、農耕期の気象は変化に富む推移をしましたが、皆様のご努力により、一番・二番草の合計収量は、ほぼ平年並みとなりました。一方サイレージ品質は地域差があるものの、やや低い傾向になりました。また、畑作物は天候の影響を受けやや低収、野菜は販売額で前年を上回りました。国内農業面では生乳の消費低迷に

伴い、13年振りの生産調整（計画生産）が強いられました。さらに、消費低迷が背景の乳価目減りや、見込まれるチーズ消費拡大による、チーズ生産振興が乳価へ及ぼす影響など、将来を展望する経営計画の修正を余儀なくされる状況となりました。また、農水省は価格維持のため、緊急需給調整を発動し、愛知など4県で合計9710トンの冬キャベツを産地破棄するなど、国内農業を取り巻く情勢は緊張の一途であります。

国際的な面では、WTOを補完する日本とオーストラリアのFTA（自由貿易協定）交渉入りに際し、北海道農業が重大な危機に陥る事が判明するなど、今後とも注視していかなければならぬ状況にあります。

このような国内外の状況に対し、農業者と関係者が共に意志をひとつにして、消費者をはじめとする幅広い分野へ、農業と食料への理解を、自ら求めていく事が大切です。そのためには「北海道農業・農村ビジョン21」に掲げる食・環境・人・地域の視点を重視し、「北海道食の安全・安心基本計画」に基づき取り組みが重要となります。諸情勢を背景に、

今後の経営をどのように展開すべきかが大きな課題です。燃料が高騰する中で、農業資材価格が下がることへの期待は皆無です。一方で、生産物価格は低下の一途です。前年同様の所得を必要とするならば、生産効率を上げるか規模を拡大するしか方法がありません。酪農における生産効率向上で、最も重要な技術は「適切な乾乳期管理」により疾病を防ぎ、分娩間隔を必要最小限にすることです。

また、規模拡大は労働の限界をきたします。この対応のため、コントラクターなどの地域支援組織が有効ですが、所得放出がともないますので、所得放出を上回る規模設定が必要となります。従って経営と技術に対する十分な検討が大切です。

普及センターは、農業者と共に考え悩み、将来が豊かな地域づくりを、関係機関と共にすすめたいと考えております。

最後に、本年は皆様方がご健勝であり、実り多い年となりますことを心からご祈念申し上げます、年頭のご挨拶といたします。



明るい笑顔とパワーで

明けましておめでとうございます
ます。

本年が皆様にとって希望に満ちた年となります
りますよう心よりお祈り申し上げます。

今年度、私達女性部は役員改選となり、新しい顔ぶれでスタートしました。始めはわからない事が多く、戸惑いましたが皆様に御協力いただき活動して参りました。

昨年は生産調整初年度となり、私たち女性部も年度当初より牛乳の消費拡大に向けて、牛乳・乳製品を使った料理教室やJA夏まつり、じゃがいも伯爵まつりにもミルクドリンクなどを取り入れ、牛乳豆腐の作り方なども消費者の皆様に覚えていただくことで、少しでも牛乳の消費拡大を推進できるように試作を重ね協力して参りました。

先日参加したJA全道女性大会では、「次世代につなぐ子育ての知恵」というテーマのシンポジウムが行われました。その中で女性部やフレッシュミズ活動での育児サポートなどがこれからの取り組みとして検討されていました。当女性部では、フレッシュミズ活動の時に託児を始めていますので、たくさんの方が参加して欲しいと思います。

今年も部員の皆さまの意見を取り入れながら、活動を進めていきたいと思っていますので、明るい笑顔とパワーで女性部らしい活動を進めていきましょう。

皆様の御健康と御多幸を御祈念申し上げ新年のご挨拶と致します。



女性部部长
長正路 八世榮さん

新年、明けましておめでとうございます

昨年中は、組合員の皆様をはじめ、各関係機関の皆様、JA職員の皆様には、当青年部の活動に対し、変わらぬご理解・ご協力を頂き、感謝申し上げます。

昨年は、消費低迷による生産調整の開始、海外との農業交渉等、取り巻く環境は、年を追うごとに厳しさを増し、我々の営農意欲を低下させる由々しき事態となっております。

このような時代にこそ、私達青年部は「協同の精神」の下、直面した問題に若さと情熱を持って、取り組んでいかなければいけない決意であります。

また、「中標津ミルクラーメン」や「ウエルカムミルクキャンペーン」、「白いプリン大作戦」など、地域をあげて、応援してくれている事に感謝しつつ、これからも「安心・安全な食糧基地なかしべつ」を続けていくべく、活動を続けていこうと思います。

皆様には、今年も私たち青年部が変わらぬご指導、ご鞭撻（たま）まには、叱咤激励（しちかごう）をお願ひしますとともに、皆様も、今年一年、健康に留意され、健やかで素晴らしい年になりますよう、ご祈念申し上げます。



難局を若さと情熱で乗り切る



青年部部长
中本 信幸さん

第55回全道JA青年部大会が12月7日〜8日に札幌市内のパークホテルで開かれ、当青年部からは6人が参加、全道各地から約500人あまりの盟友が大会テーマ「With you」思いを絆へ」の元に一同に集まり、基本農業政策の確立、食農教育の充実、自己探求と次代への伝達という意志の集結と取り組みの強化と日本と豪州とのFTA、EPA交渉における特別決議を確認しあいました。



堂々と発表に臨む金子雄司さん

の評価は、どの発表者の主張も非常に良く出ており、ほぼ一線で甲乙付けがたいとの講評でしたが、発表制限時間の10分を8秒間オーバーしてしまつたことによる、4点もの減点が痛手となり最優秀賞の受賞にはなりませんでした。

最優秀賞にはスーパードクターの時代と子供の発病、このことを契機に自然あふれた田舎への回帰、そして前職を活かした直販への道のり、挫折、仲間や地域の中での自分の位置づけなどを「私の農（みのり）」として発表したJAみねのぶ青年部の白石陽一さんが選ばれ、東北・北海道大会への出場を決めました。



酪農畜産分科会で

実績発表部門では、「心の柱」と題して子ども農作業体験交流をメインに発表したJAふらの青年部富良野支部の佐藤透さんの発表が最優秀賞に選ばれました。

生産現場からの自己発信を目的とした分科会では、米、畑作・青果酪農畜産、食の安心安全の4科目に分かれて、道担当者やホクレン担当者などがそれぞれの科目での話題、情勢などについて話し、盟友からの質問、提案・依頼に回答していました。

その後も、懇親会でのアームレスリング大会や2日目の元プロ野球選手「栗山英樹」氏による記念講演「夢をおいかけて」、1分間スピーチなどの大会日程が行われ、英知と行動力が結集しました。



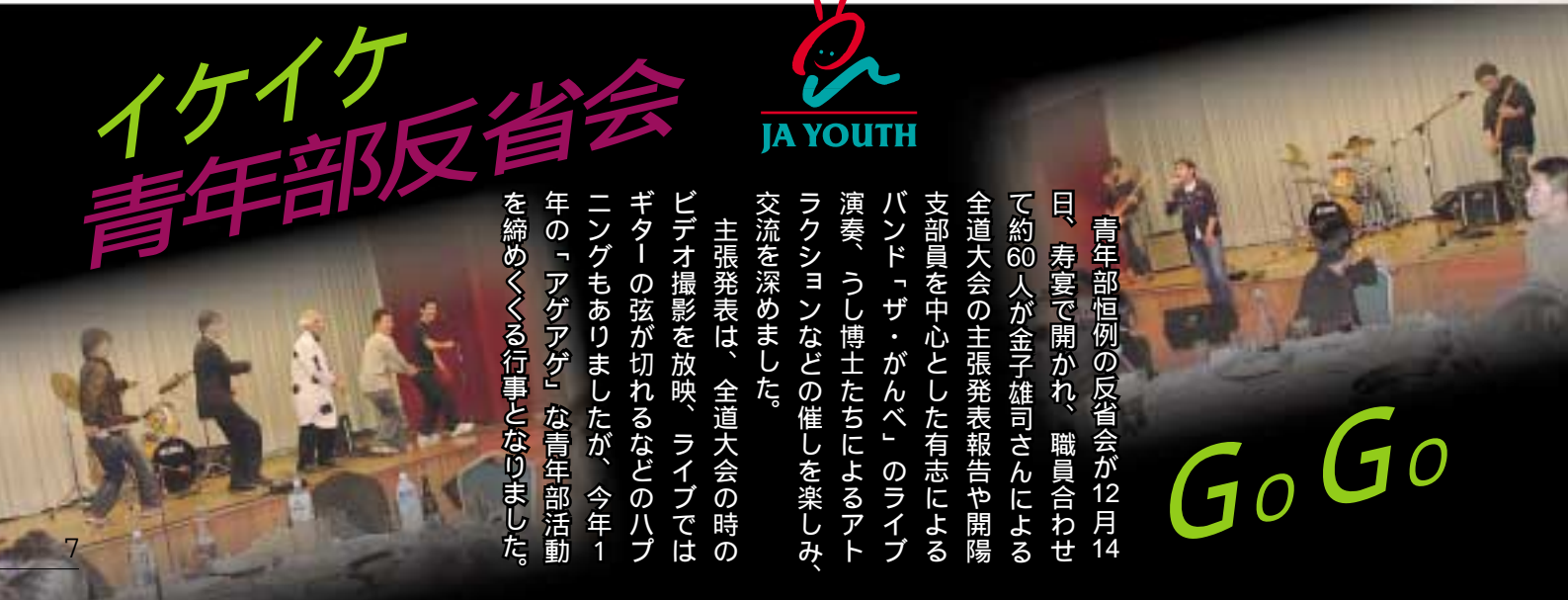
栗山英樹氏によるスポーツ選手の暴露話も

イケイケ 青年部反省会



青年部恒例の反省会が12月14日、寿宴で開かれ、職員合わせで約60人が金子雄司さんによる全道大会の主張発表報告や開陽支部員を中心とした有志によるバンド「ザ・がんば」のライブ演奏、うし博士たちによるアトラクションなどの催しを楽しみ、交流を深めました。

主張発表は、全道大会の時のビデオ撮影を放映、ライブではギターが切れるなどのハプニングもありましたが、今年1年の「アゲアゲ」な青年部活動を締めくくる行事となりました。



Go Go

「えふ・すういーる」視察研修に参加して

竹村 絵里さん



長井牧場視察
ふかふかの麦稈にビックリ、キレイな牛ばかりでした

11月16日、17日にかけて開かれた「JA計根別女性後継者グループ「えふ・すういーる」視察研修に参加してきました。

交流先は、江別市の酪農家の奥様たち「江別ミルク・レディースクラブ」です。今回は、個性あふれる5人のメンバーと、用意していただいた手作り乳製品料理の昼食を交えて、酪農状況や後継者について意見交換をしてきました。

大都市札幌の通勤圏内の土地柄から、土地取得は困難であり濃厚飼料に頼らなければならず、規模拡大は難しいが、直接製造販売先との契約により乳代高になり、現状維持が出来ているそうです。朝搾った生乳が、午後2時には製品となり店頭



貴重な意見交換ができた交流会でした

に並ぶのは、すごいし、うらやましいなあと思いました。その反面、乳業メーカーと直接の契約なら、乳質への気配りなど大変なことがたくさんあるのだらうとも思いました。

この後、メンバーのひとり長井さんの農場へ視察に行きました。つなぎ牛舎を見ると、麦稈が尿溝までふかふかに敷き詰められていて驚きました。酪農家は堆肥、畑作農家は麦稈を物々交換してからの豊富な敷料があるのだそうです。

今回の視察研修にあたり、中標津町内の女性後継者がいる農家さんに、一緒に参加しないか声をかけさせていただきましたが、今回に限らず、交流できたらと思うので、よろしくお願います。

第32回 根室管内青年農業者会議開かれる

北海道青年農業者会議への派遣発表者を選考

第32回根室管内青年農業者会議が12月12日、北海道立根釧農業試験場で開かれ、来賓合わせて約80人が各4Hクラブ、青年農業者団体の活動をプロジェクト発表、アグリメッセジの2部門で審査し、1月に行われる北海道青年農業者会議への派遣発表者を選考しました。

中標津町4Hクラブからは、町の課題でもある臭気対策への取り組みについて、町内でアンケート聞き取りした結果から、「中標津市街地のふん尿臭気は気になる」という問いに対して、回答者の80%が気になると回答し、「一時的な臭いだから我慢している」、「町の産業だから我慢している」、「中標津の地形や風向きなのでしかたない」など我慢を強いている実態をつかみ、中標津町家畜ふん尿臭気対策協議会との連携によりクラブ員の圃場でスラリー散布時の消臭資材試験などを行い、効果を検証したことを報告しました。

中標津町4Hクラブの提案する臭気対策として、臭気対策に消臭資材利用やばつき処理などで取り組む酪農家は通常散布、無対策農家は農協有スラリーインジェクターでの作業を推奨する。散布時期の自主規制による集中と分散で臭いのする時期を一時期にし、その情報を町民に周知し、「洗濯物に臭いが付く」という町民の不満に理解を求める。GPSを活用

用して一般消費者の生活時間帯を回避して散布するなどを紹介。実現可能、非現実的であるかもしれないが、としながらも一般消費者や中標津の町民に対してもっとPRする必要性を感じたこと。当事者である酪農家が特に興味を持って臭気軽減の取り組みを行っていくことが重要なことをプロジェクトの中で認識したことが活動の第一歩であり重要な成果であったと発表しました。

残念ながら、全道大会への選考にはもれましたが、地域の課題に取り組み姿勢と町臭気対策協議会などとの次年度以降も連携した活動をとの講評を受けたことから、継続的な取り組みが期待されました。



中標津町4Hクラブとして発表した峰松宏樹さん

『女性の集い・加工食品製造研修』

農産販売課 三浦 由美



12月7日、JA中標津農業農村交流施設にて、『女性の集い・加工食品製造研修』が行われ、5人が参加しました。『女性の集い』とは、畑作農家の奥様達で構成されています。今回の研修は、参加者の方に持ち寄って頂いた馬鈴しょとかぼちゃを使い、ひき肉・タマネギを使ったスタンダードなコロッケと、かぼちゃをふんだんに使ったかぼちゃコロッケを作りました。パンは、あんパン・メロンパン・ソーセージパン・食パンと4種類のパンを焼きました。

農繁期は忙しいため、なかなか顔を合わせる機会が少ない方たち同士なので、作業中は手も動かしながら、話も盛り上がり、わきあいあいとした楽しい時間は過ぎていきました。

今後は、他にも色々なメニューに挑戦していつて、参加して頂いた方々に少しでも楽しんで帰っていただけたような活動をしていきたいと思っています。

また、なかなか顔を合わせる機会の少ない奥様達が、加工食品製造研修等を通じて、少しでも交流を深めていけたらと考えていますので、今回参加していただいた方はもちろんのこと、まだ参加した事のない方も是非気軽に参加していただけたらと思います。



楽しい一日となりました

JAなかしべつ杯 ソフトバレーボール大会



毎年恒例となっているJAなかしべつ杯ソフトバレーボール大会が12月17日、中標津町営体育館で開かれ町内外から32チームが参戦し、5コートでリーグ戦を行い、リーグを勝ち抜いたチームによる決勝トーナメントで勝敗を競いました。

今回の開催が11回目。町ソフトバレー協会の方々の運営で行われています。競技人口が減っていると言われる中で、大変多くの方がチーム編成していただき、大会へ参加していただいております。有難うございます。熱闘を繰り広げた大会の結果は次の通り。

乳製品の詰め合わせや伯爵いも10kgなどの賞品を受賞しました。



青年の部
1位〃C 3、2位〃パ
トⅢ、3位〃G UP、
チームブレイク

壮年の部
1位〃中標津JV、2位〃
KT35一番隊、3位〃チ
ム笑、KT35四番隊



わが家の人気者

人に優しい子に育って！

PROFILE

松田 涼くん りょう 2005年6月5日生まれ
松田貴裕・かおりさんの長男として生まれる。



今月の『わが家の人気者』は、
当幌地区、松田貴裕さん宅の長
男の涼くんです。

ちようどお昼
寝から目覚めた
ころ、取材にう
かがったのでこ
機嫌な涼くん。
寝起きの良さは
バツチリです。
ママのかおりさ
ん曰く、元気は
いいんだけど、
人前に出るのが



吉正いいちゃんと

愛犬コロちゃんとは、涼くんの
食べこぼしをコロちゃんが食べる
という間柄。時にはおやつを取り
合いもするし、追いかっこは毎
日のようにして
遊んでいるそつ
です。
涼くんは、パ
パの大きな靴を
履いたりするの
がお好きみたい
な。玄関は遊び場
になっているの
だとか。



苦手な「照れ
屋さん」で、
ママの周りか
らなかなか離
れられないの
だとか。

名前は、省
略されない、
難しくない名
前をとっている
いや、言葉の
響きも好きで
「涼」と命名
したそうです。

最近、少し高いところにあるモ
ノを、不安定なオモチャのじょう
ろやおしめなんかを踏み台にして
取ることを覚えたの。自分で頭を
なでて「いい子、いい子」もする
のだとか。

テレビでお気に入りのシーンが
始まると、リズムに合わせて足で
「ドン、ドン、ドン！」とリズム
をとりながら、満面の笑顔を見せ
てくれました。

パパ・ママに涼くんのこれから
に対する思いを訪ねたところ、「勉
強ができなくても、スポーツがで
きる子になって欲しい。元気でわ
んぱくでも、人に優しい子に育つ
て欲しい」と話してくれました。

全道女性大会・ 家の光大会に参加



大会に参加した長正路部長、松田副部长

女性部副部长
松田 幸子さん

「JA女性 変わろう 変えよう宣言」を重点課題として取り組んできた女性活動の確認と取り組みの拡大を図る、JA全道女性大会及び北海道家の光大会が11月8～9日札幌市で行われ、当女性部から長正路部長、松田副部长を含む全道の女性部員約700人が参加し盛大に開かれました。今回は、松田副部长に研修会の内容を報告していただいています。

全道大会と地区別研修会を
毎年交互に行っているこの全

道行事は、組織のリーダーの育成やネットワーク作りを目的とし、講演会や体験発表・事例発表が行われます。また、各女性部による手作り加工品や作品展示も催されます。

前日には、佐呂間町で竜巻により尊い命が奪われるという悲しい事故がありました。自然を相手に生活の糧を見いだしている私たちにとって、自然災害の怖さを思い知らされ、他人事ではないと思えました。

1日目のシンポジウムは、「次世代につなぐ子育ての知恵」というテーマ。パネラーの体験に基づいた提言に始まり、若い母親からは、自分たちの努力ももちろんですが、家族の後押しが踏み出す第一歩になると話しておられました。

基調講演では、農業者は、「自然と相対し命を育む事で自らも生きていくのだから、

日常の生活や交流により、これからの時代を担っていく子供たちに、命の大切さや生きる事などを伝えることが出来る。農業生活をそうした視点で見直す事からはじめてはどうか」という提案がありました。

私たちの生活の第一産業は、動物の生死を幼い頃から身近に感じ、また、多世代の共同生活の中で命の大切さを自然に教育されているという素晴らしい環境の中にいると思えます。そんな優しさや相手をお願いやる心を育てていかなければならないと思います。また、その役割も私たちの大事な仕事であると強く感じました。

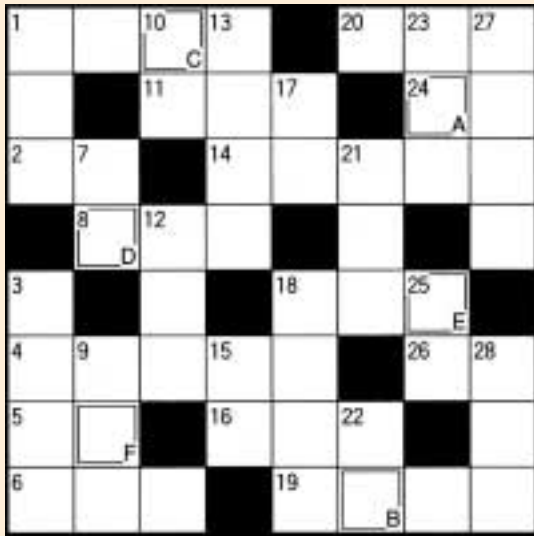
2日目は、「絆を深め農の心を未来へ」というテーマ。農畜産物の需要低迷に対し、情報の発信やPR等について、ひとりひとりが発言・行動をして、交流の場を広げることや呼びかけが必要とありました。子供や孫世代に農業の大変さばかりではなく、この仕事の良いところを伝え、自分たちが楽しく生活している姿を見せる事が大切だと思います。

昔では当たり前であった家族揃っての食事、挨拶、思いやり、こんな生活の基本が、壊れてきているように感じます。子供が犠牲になる悲しい事件が全国で毎日のように起き、これから、この国は、どこへ向かっていくのだろうと不安になる時があります。同じ地球上のどこかでは、生きるための食事も摂れず亡くなっているところもある中、私達は考えなければならぬ事がたくさんあると思えます。

今、色々なモノが豊かになりました。それに伴い、もっと心やさしく豊かにならなければならぬのに、豊かさ故に失っているものがたくさんあるのではないのでしょうか。科学による前進や発展も大切だと思いますが、昔から脈々と受け継がれている技術や知恵を上手に取り入れ、これからは担っていく子供たちに食の大切さや生きる事の素晴らしさを伝えていく手助けが出来ればと強く考えさせられた大会でもありました。

クロスワード

出題 / ニコリ



昨年12月号での回答受付期間が1月26日までですので、今回のクロスワード抽選はありません。そして、この新年号の締め切りも1月26日までとしますので、どちらの号も解いて、応募してください。

当選したら何かもらえるの？ という質問をいただいています。その時々で違いはありますが2千円相当の賞品が手渡されます。当選された方は、お手数ですが機会を見て経営企画課までご足労願います。

読者の声

渡邊御夫妻、根室管内農業賞受賞おめでとございます。30回目になるんですね。そうですね、根室管内農業賞って昔々は「児玉賞」じゃなかったですか？
(PN / 調査求むさん)

😊ということで、調べてみました。そもそも「児玉賞」制定の経緯は、昭和38年10月に児玉由一氏が「農業に役立てて欲しい」と中標津町へ提供した私財を基に、中標津町を事務局として農

民報償制度の「児玉賞」を制定したそうです。授賞対象者は、町内において情熱を抱いて農業に従事努力、経営技術に創意工夫をこらして将来の発展が大いに期待される者を2人ずつ表彰したもので昭和38年～41年まで続けられました。そして、さらに42年5月24日、児玉由一氏が「藍綬褒章」を受章されたことを機会に、さらに多額の寄付を申し出られたので、児玉賞委員会協議の結果、町内のみならず広く根室管内を

第7回 理事会

開催月日 平成18年12月1日
開催場所 農協中会議室

決議事項

- 1 平成18年度9月末定例自治監査の結果と回答について
- 2 飲酒運転の懲戒処分の厳罰化等に係る職員就業規則等の改正等について
- 3 内部審査の実施結果に基づく規程類の改正について
- 4 上半期ディスクロージャーの作成について
- 5 各資金の借入申し込みについて
- 6 平成18年度 畜産環境整備リース事業実施希望予定について
- 7 平成19年度重点指導組合員、指導組合員について

報告事項

- 1 組合員の加入状況及び脱退の状況について
- 2 J Aバンク基本方針に基づく「経営状況に関する事項の報告」について
- 3 共栄火災海上保険株式会社の損害保険代理店委託契約について
- 4 株式会社コープ・アイとの業務分担に関する協定の締結について
- 5 飼料基盤促進事業の取り進めについて
- 6 営農部経営相談課職務分掌について
- 7 酪農飼料基盤拡大推進事業概算金について
- 8 中標津町農協家畜伝染病淘汰互助会の支出について
- 9 当面の生乳の需給について
- 10 バルククーラー自記記録温度計のとりまとめ状況について
- 11 平成18年度産原馬鈴薯出荷実績と畑作物生産状況について
- 12 根室家畜市場価格の推移について
- 13 購買未収金の回収状況について
- 14 生活事業検討会の検討内容について

二重マスの文字を、A～Fの順に並べてできる言葉は何でしょうか？

タテノカギ

- 1 侍の必需品
- 3 指先を使う女の子の伝統的な遊び
- 7 フキを調理する際に取るもの
- 9 通り過ぎてしまいました
- 10 天然 都市 プロパン
- 12 抜けば玉散る氷の
- 13 サルの得意技 たまに落ちることもあるらしい
- 15 相撲の準備運動の一つ
- 17 たいて香りを楽しむもの
- 18 汚れを取り除き、きれいにすること
- 21 おでんの味を引き立てるもの
- 22 これが働くとき「ピン！」ときます
- 23 日 切手 行事
- 25 縦と直交する方向
- 27 テレビ ラジオ 編成
- 28 カルシウムたっぷり 何匹か連なっています

ヨコノカギ

- 1 名刺によく書かれている、役職名などのこと
- 2 初夢で見ると良いといわれるものの3番目
- 4 1月に東京の両国国技館で開催されます
- 5 恵みの雨のことを、干天の ともいいます
- 6 何かをするのに良いとき チャンス
- 8 道に敷き詰められることもある小さな石
- 11 流しや風呂場に敷きます
- 14 コート マフラー 手袋
- 16 紙幣ではないお金
- 18 意味が分からないときはこれで調べてみましょう
- 19 日本髪のアクセサリ
- 20 牛や馬が放牧されています
- 24 大切なことなので には を入れました
- 26 日本人の主食

対象とすることになりました。事務局も町から根室生産蓮に移され、この42年度からは表彰対象も根室管内に於いてという文章が追記されました。また、表彰者もこれまでの2人から5人以内へと拡大されました。

この42年を第1回目と数え、昭和49年の第8回の時に児玉由一氏よりこの制度の目的は達せられたとして中止の申し出を受け、委員会でも検討し昭和50年に中止されました。児玉賞委員会では今後の取り扱いを管内組合長会に一任することとなりました。

そして51年7月、不幸なことに児玉由一氏が他界されたのです。この時児玉家より町へ香典返しとして多額の寄付がなされ、町より基金の充実にと組合長会に交付されました。

組合長会で検討した結果、各農協からも相当額の拠出をして新規に52年より『根室管内農業賞』の制定を行ったということです。農業協同組合法公布記念日の11月19日に皆さんの功績を讃えることとして、根室の酪農が続く限り11月19日に表彰式を施行することとなっているそうです。

なるほど、児玉賞が直接根室管内農業賞ではありませんが、設立の経緯では初めに児玉賞ありきでした。

「児玉賞」の変遷 中標津町農業協同組合管内分

中標津町児玉賞	年度	受賞者	地区
中標津町内より2人表彰時代 事務局中標津町	S38	玉沢正春	字開陽
	S39	竹下日吉	字俣落
	S40	金子安有	字俣橋
	S41	飯島光五郎	字中標津

根室管内児玉賞	年度	受賞者	地区	開催回
管内全域に及び5人以内の表彰に事務局根室生産蓮S49年に児玉氏より中止の依頼	S42	鈴木敏夫	字開陽	第1回
	S43	横田国雄	字俣落	第2回
	S44	中曾根茂四郎	農業者外	第3回
	S45			第4回
	S46	太田功	字俣橋	第5回
	S47	杉本匡視	字俣落	第6回
	S48	古澤翠	字協和	第7回
	S49	内藤八郎	農業者外	第8回

😊 充実した一年だったこととで、ウラヤマシイ限りです。私もやりたいことがあるけれども消化不良気味で後半戦を戦ってききました。感想は一年ってハヤイです。

😊 新年を迎えるに当たって、気持ちも新たに、スタートダッシュを切れるようにがんばります。あるへの応援もあり、ありがとうございます。買物先は数あれど、価格と質のバランスは町内一だと思えますので、「ご利用を!!」

😊 ほんとおうちが一番です。出張に行っても、友人・知人の家に行っても。温泉旅行に行ったら、落ちつくもんなあ。(どこでも寝られるけれど...)。

😊 50歳一歩手前で女性としてもまだまだ働きざかり、来年も目標を持ってがんばります。JAあるを応援してます!! (小出公子さん)

😊 なんだか、今日は頭が回らなかつたなあ。忘年会シーズン。夫は今晚は出掛けただけ、寒いので大変だ。うなあ、などと思いつつ、家でぬくぬく! 東京にいる娘は「さむいさむい」といっている。北海道の住宅は素晴らしい!! お家が一番!! (PN/楓)

みんなの 掲示板



イベント、公募、売り買いのリサイクル情報など、組合員の便利な掲示板として、皆さまからの情報提供もお待ちしております。

72-3721

e-mail:soshikikouhou@infoseek.jp

北根室管内地区 農村女性講座

文化会館

11/1

11月1日、中標津町
総合文化会館「しる

べつと」にて、北根室管内農村女性を対象に『増やそう！酪農応援団』と題した「北根室地区農村女性講座」が開かれ、JA中標津からは12人が参加しました。

牛乳・乳製品を使ったレシピのティラミスや牛乳豆腐コロッケ、簡単グラタンを各グループで実際に作る料理講習会と参加者の方が提供してくれた料理やデザートを試食しながら交流を図り、「消費者交流で得たもの、学んだもの」というテーマに意見交換が行われました。



楽しいひとときを過ごしました

東小学校5年生 「加工体験」

食品加工交流部会

11/4

11月4日、JA中標

津農業農村交流施設・

クレエにて中標津東小学校5年3組の学級行事として「加

工体験」が行われ、生徒たち31人が参加しました。

食品加工交流部会では、クレエにおいて組合員以外の様々な方との交流を目的として加工体験を受け入れていきます。平成18年度の小学生の加工体験受入は、3回目となりました。

講師を務めたのは、食品加工交流部会・片岡なみ子さんと竹村絵里さん。道産の小麦粉や中標津牛乳を使いあんパンやソーセージロール、自由創作パンを作りました。

生徒の皆さんには、丸めたあんこを生地で包むなどの成形作業を体験してもらいました。予め作っておいた中標津牛乳をたっぷり使った手作り



色々な形のパンを作りました

アイスクリームを食べ、美味しく焼けるのを待ちました。パンが焼き上がると、生徒たちは大興奮でした。自分で作ったパンを早速試し、大満足の様子でした。今回の体験を通して、食や手作りの大切さなどが伝わることを願っています。

女性部 ビーズ手芸教室

手作りアクセサリー 作りに挑戦!!

11/6

11月6日、農協2階中会議室にて、『女性部ビーズ手芸教室』が行われ、部員12名が参加しました。

一昨年に引き続き、今年もビーズデザイナーの小松美樹氏を講師としてお招きし、『ネットレス』を教えて頂きました。テグスにビーズを通すことや複雑な手順が難しく

苦労したものの、徐々に形ができていき、最終的には参加者全員が完成させることができました。また、希望により異なったデザインのネットレスを教わることもでき、参加した皆さんは大変満足できた

ようです。

既製品とは違い、自分で作った物や手作りの物は愛着がわき、愛情がこもっていると、思います。

今回のビーズ教室を通して、手作りの楽しさや大切さを感じて頂ければ幸いです。



しゃべることを忘れ...。皆さん真剣です

『あ・ら・かると交流会』

食品加工交流部会が 参加

11/15

11月15日、根釧農業試

験場にて、北根室農村女性グループネットワーク協議会あ・ら・かると主催による『あ・ら・かると交流会』が行われ、食品加工交流部会が参加しました。

根室管内の農村女性グループが交流する場として開催され、全体で約60人の参加となりました。

各グループが腕によりをかけて作った『手前味噌と鮭すり身の味噌汁』や『牛乳豆腐のあんかけ』などの料理を試食し、グループの作品の展示・販売が行われました。食品加工交流部会は、試食品として小松菜と牛乳豆腐で作った『青菜のチーズ和え』を出品し、道産小麦・ライ麦粉にハーブなどを加えて作ったハーブパン『プロヴァンス』を販売しました。

最後に、抽選会が行われ、当選者には各グループが用意した加工食品・加工品などの賞品が手渡されました。

11/24

「フレッシュユミズ 勉強会」

牛の周産期管理 など学ぶ

11月24日、農協大会議室にて、今年3度目となる「フレッシュユミズ勉強会」が行われ、部員8人が参加しました。

午前は、家畜改良課・佐藤太氏を講師に迎え、牛の性周期や発情周期の卵巣や子宮の変化等について教えて頂きました。また、繁殖障害やその原因について、発情発見や授精のタイミングについても教えて頂きました。

午後は、農業改良普及センター・松本啓氏を講師に迎え、乾乳・周産期の管理について教えて頂きました。



「手作り手芸教室」

女性部青葉会

11/27

11月27日、農協大会議室にて、女性部青葉会「手作り手芸教室」が行われ、11人が参加しました。

今回は、イス・収納箱として便利なさくら紙箱の「すわり箱」作りに挑戦しました。

好みの柄のコットン生地を型取り、専用ダンボールとポール紙で組立て、それにコットン生地を貼り付けて収納部分は出来上がり。次に、ベニヤ板とウレタンを貼り合わせ、コットン生地を包み込むように貼り付けると座面部分が出来上がり。と、作業自体は切る・貼るだけで簡単そうなのですが、綺麗に貼り合わせるのにはなかなか難しく、完成まで5時間程かかりました。

ダンボールで出来ていますが、かなり頑丈で100kgの重量は大丈夫とのこと。見た目にも素敵な作品が出来上がり、大満足の様子でした。手作りで心豊かな時間を過ごした1日となりました。

材料購入さくらほりきりのHP「さくら通信」
<http://www.sakurahoriki.co.jp/>



貼っても貼ってもまだ出来上がらない...

第3回 「加工体験交流会」

12/1

食品加工交流部会主催

12月1日、JA中標津農業農村交流施設にて、JA中標津食品加工交流部会主催、第3回「加工体験交流会」が、中標津町民10人を招き行われました。

消費者への牛乳・乳製品消費拡大推進、交流施設での加工体験を通し、部会員・消費者との交流を目的として行われ、食品加工交流部会3グループのうちの2グループが8月・



参加者はどんなパンが出来上がるのかと興味津々

10月に終了したので、最後の加工体験交流会となりました。今回は、菓子パン作りをメインメニューとして参加者を募集。「ソーセイジパン」、「あんパン」、「シーザーサラダ」、「ホワイトシチューのホットパイ」を作りました。初めてパン作りを体験した方が多く大変喜んで頂けたようです。

また、ホワイトシチューを器に盛りつけて食べるだけではなく、パイ生地をかぶせてオープンで焼くホットパイは手軽にアレンジできるということもあって大好評でした。出来上がった料理やパンを試食しながら、部会活動や料理法などについて意見交換が行われました。

この体験交流会が、食卓に牛乳・乳製品料理がたくさん登場するきっかけになり、手作りの楽しさや大切さが伝わることを願っています。

ボウリング交流会

12/2

フレッシュユミズ&家族で

12月2日、ウコウボウルにて、フレッシュユミズ家族でボウリング交流会が行われ、部員9人含む33人が参加しました。

今回は、部員だけでなく、主人や子どもと一緒に参加して、家族揃っての交流、楽しい時間を過ごすことを目的として行いました。



清原舞成くん、ママと一緒に

パパの部、ママの部個人戦でゲームスタートとなりました。ゲーム中は、ストライク・スペアーなど連続で出す人もおり、上位はなかなかのハイレベルなゲームとなりました。また、ミスストロークに対しては、本人を含め同じレーン内から笑い声が。パパや兄弟に手伝ってもらって打球する光景がとて和やかなムードになりました。

ゲーム終了後は、大会の成績発表を行い中本泉穂部会長より上位入賞・ブービー賞獲得の方々に賞品が手渡され、終始盛り上がった大会となりました。

優勝者は、パパの部・清原孝志さん、ママの部・山下綾さんとなりました。おめでとうございます。

今回、フレッシュユミズ初めての家族と一緒に活動となったため、企画者の不安が大きかったのですが、多くの方に参加して頂き大変感謝しております。次回の家族参加企画にも、是非多くの方に参加いただけますようお願いいたします。

「女性部」スポーツ交流会

12/5

運動不足解消・女性部三層の交流の場

12月5日、中標津町営体育館にて女性部の「スポーツ交流会」が行われました。

日頃の運動不足解消・女性部三層の交流の場として企画されたスポーツ交流会で、今回は10人の参加があり、ミニバレーを行いました。アウトラインぎりぎりのサーブや珍プレーが出るなどし、歓声や笑い声が絶えることのない時間を過ごしました。

参加人数が少なく残念ではありましたが、楽しい交流会となりました。



この後のボールの行方は...

「青年部」スポーツ交流会

12/12

連絡協議会主催

12月12日、JA根室地区青年部連絡協議会主催のスポーツ交流会がウコウボウルで開かれ、管内8組と地区青協役員チームの全18チーム約60人が汗を流し、青年らしい力みなぎる投球でピンを弾くガコンという快音が場内に響き渡っていました。



高橋正和くん(左)の1投でターキーに

団体戦は3人1組で各2ゲームの総合得点を競うもの。当農協青年部からはA〜Cの3チーム9人が参加。団体賞ではAチーム(清原孝志さん・高橋春樹さん・秋山勝之さん)も賞品こそありませんでしたが、3位という結果となりました。

個人賞では、1ゲームで唯一200点オーバーのスコアを記録した秋山勝之さんが受賞しました。

単組で予選会を開くJA青年部もあるなど、年々出場者のレベルが上がっているスポーツ交流会、当農協青年部は予選会なしで、毎年上位入賞しています。



優勝したAチーム。赤いパーカーの秋山勝之さんはハイスコア賞にも

JA中標津の公式ホームページが完成

www.ja-nakashibetsu.or.jp

このほどJA中標津の公式ホームページ（以下HP）の大方の枠組みが完成しました。JAなかしべつの対外的な「顔」として幅広い層の方に楽しんでもらえる内容で、こまめな更新作業を行っていくこととなります。組合員の皆さんからの情報もよろしくお願いたします。

HPの特徴としては、広報誌を主体として、対外的にJA中標津のことを伝える媒体として、広報誌ではカバーしきれない深い内容や速報などHPならではの内容を網羅していきます。

今回はパソコン（以下PC）版、携帯版それぞれの内容について説明していきます。

- 1 **トップ** = このページがトップページです。
- 2 **組合の予定** = 広報誌に掲載した内容を元に、適宜職員、皆さんからの情報で追記していきます。
- 3 **職員日誌** = 職員の日誌。職員向けの言葉や日々の雑感、酪農関係のこと、畑作関連のことを網羅していき、ここを調べると色々分かる便利なページという内容にしていきます。これを見た人からの返事など双方向での交流が可能に。
- 4 **トピックス** = 広報誌に入りきらなかったものや各課からの速報などを掲載します。
- 5 **JA中標津の概要** = JA中標津の各種事業と取り巻く環境などを紹介していきます。
- 6 **はたらきませんか?** = 現状では酪農スタッフ募集とパートナー募集で後継者対策協議会のお知らせです。
- 7 **暮らしの情報** = 各課の取り組みを掲載。
- 8 **JAで学ぼう** = JAで行った消費者向け行事の内容や消費者からの感想を綴っていきます。
- 9 **女性部** = 広報誌をもとに、女性部の活動を掲載。
- 10 **青年部** = 広報誌をもとに青年部の活動を掲載。青年部が制作するHPへのリンクもあり。
- 11 **食品加工交流部会** = 広報誌を元に加工部会の活動を掲載。
- 12 **売・買・交換 & 仲間募集** = 売買交換仲間募集のページ。
- 13 **簡単レシピ** = 広報誌の裏表紙に掲載しているレシピを単独で紹介。
- 14 **リンク** = 役立つリンク集
- 15 **お問い合わせ** = メールによる問い合わせに対応。担当所轄に振り分けられます。
- 16 **ご利用規定** = このHP活用時の規定、このページにおける免責事項など



- A 広報誌PDFはこちら = ここから過去の広報誌をダウンロードできます。
- B JAなかしべつ乳製品工場 = 乳製品工場HPへのリンク。
- C あるweb = あるHPへのリンク。
- D マリンスファーム = 生産者団体マリンスファームさんへのリンク。
- E JAバンク = 公式ページへのリンク。
- F JA共済 = 公式ページへのリンク。

携帯版については

組合の予定、職員日誌、はたらきませんか、ご利用規定が閲覧できます。

中標津町の場合、インターネットの接続環境インフラが市街地と市外地で差があるため、軽い動作の内容にしております。

公式HPについてのご意見ご感想もお待ちしておりますので未永くお付き合い下さい。

行事予定表

2006年12月 組合動静

- 1(金) 第7回理事会、営農計画書作成
- 4(月) 馬鈴しょ振興会4役会・役員会
- 5(火) ルーキーズカレッジ、てん菜振興会役員会
- 6(水) 地区別懇談会(当幌・中標津)
- 7(木) 地区別懇談会(第2俣落・俣落)
- 8(金) 地区別懇談会(開陽・武佐)、女性部3役会
- 9(土) 地区別懇談会(依橋)、馬鈴しょ全体会議
- 11(月) 農協営事業入札
- 12(火) 北海道常例検査~15日、ルーキーズカレッジ
- 14(木) 女性部役員会
- 18(月) 農業者年金監査
- 19(火) 後継者懇談会
- 20(水) 酪対会議、中標津地区集落推進会議
- 21(木) 野菜産地改革協議会、
- 22(金) 営農委員会
- 25(月) 第8回理事会、野菜価格安定基金協議会
- 26(火) 和牛振興会打合せ
- 30(土) 仕事収め

2007年1月

- 1(月) 元旦
- 2(火) あるる初売り10時~17時迄営業
- 3(水) あるる10時~17時迄営業
- 4(木) あるる10時~17時迄、資材店舗12時迄
配達受付10時迄、金融・共済15時迄
- 5(金) あるる10時~17時迄、資材店舗12時迄、
乳製品工場平常営業開始
配達受付10時迄、金融・共済15時迄
- 6(土) あるる平常営業、資材店舗12時迄配達
受付10時迄、共済12時迄
- 7(日) あるる平常営業
- 8(月) 成人の日
- 9(火) 一般業務初め、クレ工使用申し込み開始
- 10(水)
- 11(木)
- 12(金)
- 13(土) 役員協議会・系統連合会との新年交礼会
- 14(日)
- 15(月)
- 16(火)
- 17(水) 内部審査(営農・生産部)~18日
- 18(木)
- 19(金) 女性部新年恒例会
- 20(土)
- 21(日)
- 22(月)
- 23(火)
- 24(水)
- 25(木)
- 26(金)
- 27(土)
- 28(日)
- 29(月)
- 30(火)
- 31(水)



青菜のミルクチーズあえ

昨年1月号から始めたこのコーナーは、なかしべつの農畜産物の地産地消などを目的にレシピを掲載しています。広報係男性職員が実際に作ってもできる簡単なものなので是非、お子さんたちと一緒に作ってみてください。

さて、今回は青菜のミルクチーズあえ。乳清でホエースープもできちゃいます。(レシピ協力・JA中標津食品加工交流部会 山下智代さん、弾正原真由美さん)

ミルクチーズ(約200g)

用意する材料

牛乳1ℓパック、酢(米酢、穀物酢、りんご酢、レモン果汁などの酸性液。大きじ2~3)またはにがり同量(濃度による)

作り方

【ミルクチーズの作り方】

鍋に牛乳を入れてかき混ぜながら約80℃に温める。(ここで沸騰させてはいけません)湯気が上がり鍋のふちがツツツとなるぐらいを目安に。火を止めてから酢を加えて手早く全体を混ぜる。もろもろした豆腐のようなものが分離したら静に置く。清潔な布巾を敷いたザルにあげ、乳清分をきる。

ポイント

酢は様子を見ながら少しずつ加えること。加える酢の種類によって必要量が異なります。乳清も栄養素が豊富にふくまれているので捨てずにホエースープなどにすると良いでしょう。

Recipe

青菜のミルクチーズあえ

用意する材料

小松菜200g、人参20g、ミルクチーズ約200g、
味付けA(味噌2g、ラー油少々、塩、みりん12g、
砂糖6g、薄口醤油4g、ゴマ12g)

作り方

【青菜のミルクチーズあえの作り方】

小松菜を茹でて食べやすい大きさに切る。醤油大きじ1をかけて水気をしぼる。人参を千切りにしてさっと茹でる。ミルクチーズに味付けAを加えてよく混ぜての野菜を合わせて完成。春菊やからしかなど色々な野菜で試してみてください。



Recipe

ホエー(乳清)スープ

用意する材料

ミルクチーズ作りで出る乳清(ホエー)600ml、
コンソメ2個、ベーコン180g、ミニトマト1パック、
黒こしょう少々、塩少々、パセリ適宜

作り方

【ミルクチーズの作り方】

ベーコンを1cm幅に切り、ミニトマトを半分にする。ホエーにコンソメを入れて溶かす。火にかけ、沸騰したらベーコンを入れ、黒こしょう、塩で味を調えて、器に盛りつけパセリを散らす。



Recipe

牛乳は素肌美人になりたいたい人に
牛乳に相談だ
nyu.com